

2026年10月29日
株式会社日本政策金融公庫

持ち直しの動きに足踏みがみられる生活衛生関係営業の景況

生活衛生関係営業の景気動向等調査結果（2026年7～9月期）

（前回）持ち直しの動きに足踏みがみられる生活衛生関係営業の景況

＜業況判断DI＞（2ページ）

- 業況判断DIは、前期から5.0ポイント低下し、▲19.1となった。
- 来期は4.2ポイント上昇し、▲14.9となる見通し。

＜売上DI＞（3ページ）

- 売上DIは、前期から2.4ポイント低下し、▲14.1となった。
- 来期は3.2ポイント上昇し、▲10.9となる見通し。

＜採算DI＞（4ページ）

- 採算DIは、前期から1.8ポイント低下し、▲6.4となった。

＜経営上の問題点＞（9、10ページ）

- 経営上の問題点は、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」が56.0%と最も多く、次いで、「顧客数の減少」（41.4%）、「店舗施設の狭隘・老朽化」（20.9%）の順となった。

※ 11ページ以降に業種ごとの業況判断理由を掲載しています。そのほか、本調査で収集した「経営取り組み事例」を日本公庫ホームページに掲載しています（https://www.jfc.go.jp/n/findings/seikatu_kekka_m_index.html）。

＜お問い合わせ先＞

日本政策金融公庫 国民生活事業本部 生活衛生融資部 生活衛生情報支援グループ TEL03-3270-1653（担当：和知、中谷）
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

【調査の実施要領】

調 査 時 点	2026年 9 月中旬					
調 査 方 法	訪問調査					
調 査 対 象	生活衛生関係営業	3,290	企業			
有効回答企業数	3,118企業（回答率 94.8%）					
（業 種 内 訳）	飲食業	1,426	企業	映画館	53	企業
	食肉・食鳥肉販売業	152	企業	ホテル・旅館業	179	企業
	氷雪販売業	54	企業	公衆浴場業	111	企業
	理容業	428	企業	クリーニング業	262	企業
	美容業	453	企業			

【本調査における留意事項】

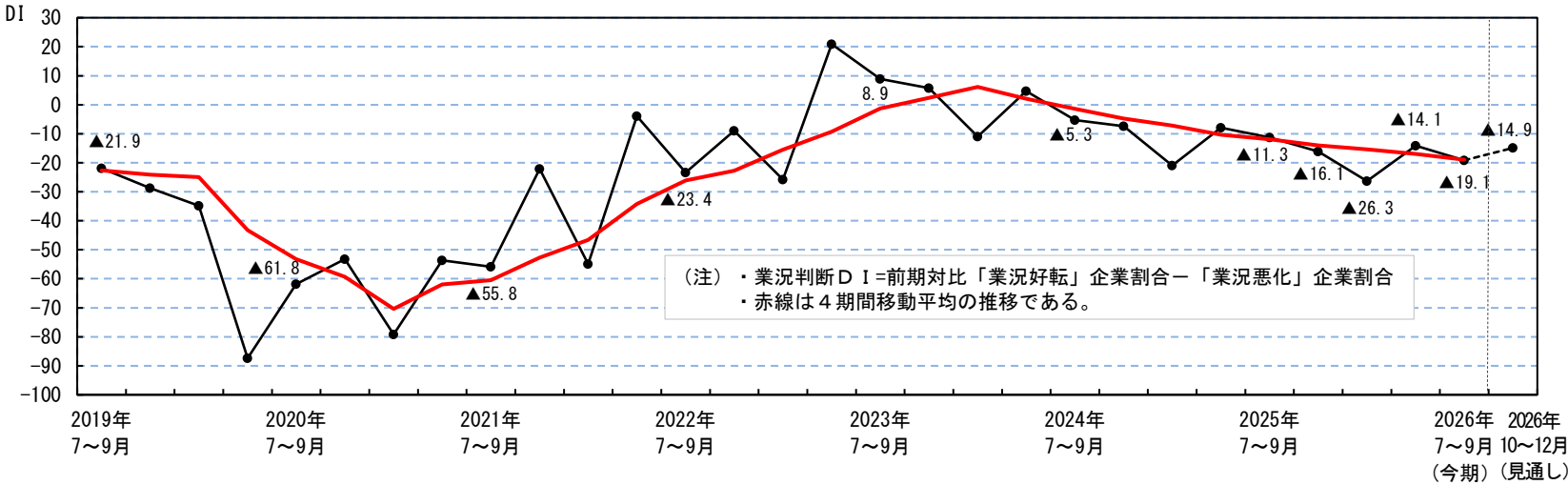
- ・ 比率の算出にあたっては、無回答を除いたものを母数としている。

I 景気の動向

1. 業況判断

- 業況判断DIは、前期から5.0ポイント低下し、▲19.1となった。
- 来期は4.2ポイント上昇し、▲14.9となる見通し。

図表1 業況判断DIの推移（全業種計）



図表2 業種別 業況判断DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月	2026年 7～9月 (今期)	2026年 10～12月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲ 30.3	▲ 19.0	▲ 21.4	▲ 23.0	▲ 17.8	▲ 6.6
氷 雪	23.6	▲ 13.5	▲ 35.7	▲ 5.3	▲ 3.7	▲ 18.5
理 容	▲ 7.6	▲ 26.5	▲ 26.7	▲ 6.0	▲ 7.0	▲ 14.5
美 容	▲ 19.0	▲ 22.7	▲ 30.8	▲ 18.8	▲ 18.5	▲ 17.7
映 画 館	38.2	▲ 13.2	▲ 11.1	23.1	▲ 9.4	▲ 35.8
ホテル・旅館	7.4	16.3	▲ 25.8	4.9	4.5	▲ 3.4
公衆浴場	▲ 9.9	▲ 1.8	10.0	▲ 10.0	▲ 20.7	▲ 20.7
クリーニング	▲ 37.0	▲ 9.3	▲ 51.3	▲ 3.4	▲ 49.6	▲ 16.4

図表3 飲食業 業況判断DIの推移

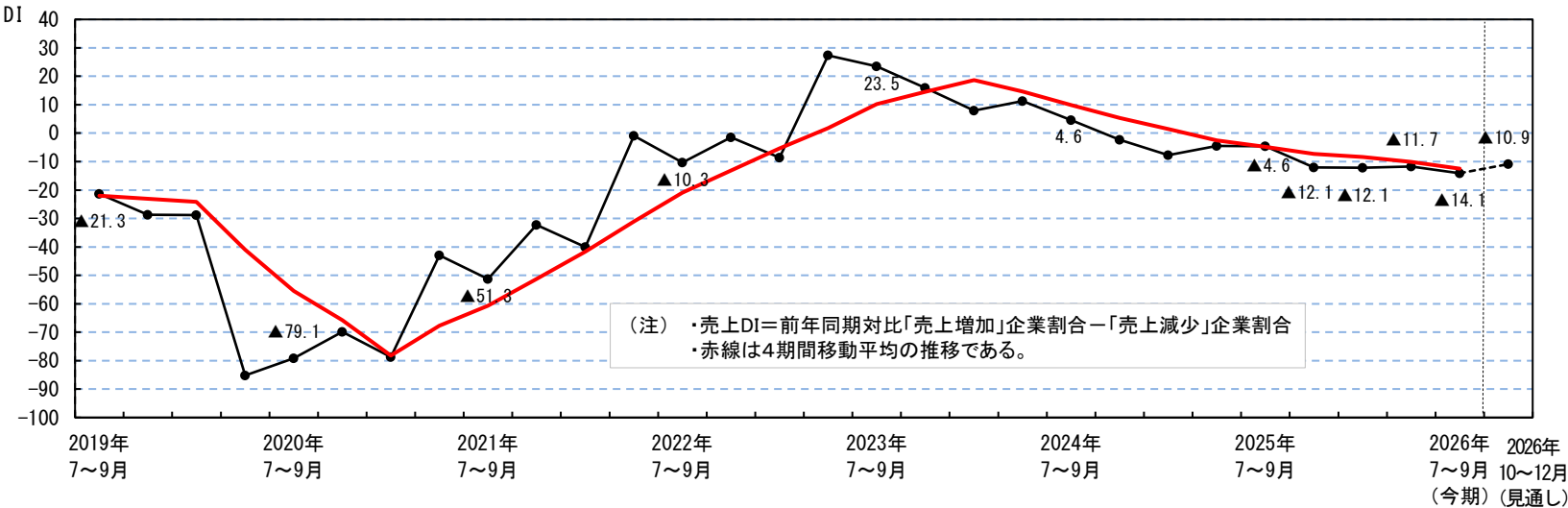
凡例	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月	2026年 7～9月 (今期)	2026年 10～12月 (見通し)
飲食業(全体)	▲ 8.9	▲ 17.4	▲ 23.8	▲ 20.4	▲ 21.3	▲ 14.8
そば・うどん	1.7	▲ 22.9	▲ 19.0	▲ 17.0	▲ 14.6	▲ 18.5
中華料理	▲ 12.5	▲ 20.3	▲ 20.1	▲ 20.9	▲ 17.4	▲ 11.8
す し	▲ 18.0	▲ 18.0	▲ 26.8	▲ 20.9	▲ 18.9	▲ 14.8
料 理	▲ 14.8	▲ 2.9	▲ 22.6	▲ 27.9	▲ 25.5	▲ 9.5
喫 茶	▲ 6.1	▲ 20.7	▲ 22.6	▲ 16.8	▲ 20.7	▲ 18.6
社 交	▲ 15.6	▲ 26.7	▲ 32.1	▲ 26.5	▲ 28.3	▲ 13.6
その他飲食	▲ 4.6	▲ 13.5	▲ 22.9	▲ 17.7	▲ 22.1	▲ 15.2

※ 表中の網掛けは、全業種計の割合を上回るものを表す(以下同じ)。

2. 売 上

- 売上DIは、前期から2.4ポイント低下し、▲14.1となった。
- 来期は3.2ポイント上昇し、▲10.9となる見通し。

図表4 売上DIの推移（全業種計）



図表5 業種別 売上DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2025年 7~9月	2025年 10~12月	2026年 1~3月	2026年 4~6月	2026年 7~9月 (今期)	2026年 10~12月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲ 21.9	▲ 10.8	1.3	▲ 7.9	7.9	7.2
氷 雪	41.8	1.9	▲ 14.3	▲ 15.8	▲ 17.0	▲ 1.9
理 容	▲ 6.4	▲ 24.2	▲ 19.8	▲ 7.7	▲ 7.7	▲ 10.5
美 容	▲ 19.9	▲ 21.3	▲ 22.0	▲ 18.8	▲ 17.0	▲ 14.1
映 画 館	50.9	22.6	1.9	19.2	▲ 37.7	▲ 35.8
ホテル・旅館	16.0	25.5	5.4	7.7	1.7	▲ 2.8
公衆浴場	0.9	2.8	26.4	▲ 7.3	▲ 3.6	▲ 9.0
クリーニング	▲ 18.5	▲ 21.2	▲ 26.8	▲ 19.1	▲ 27.5	▲ 16.0

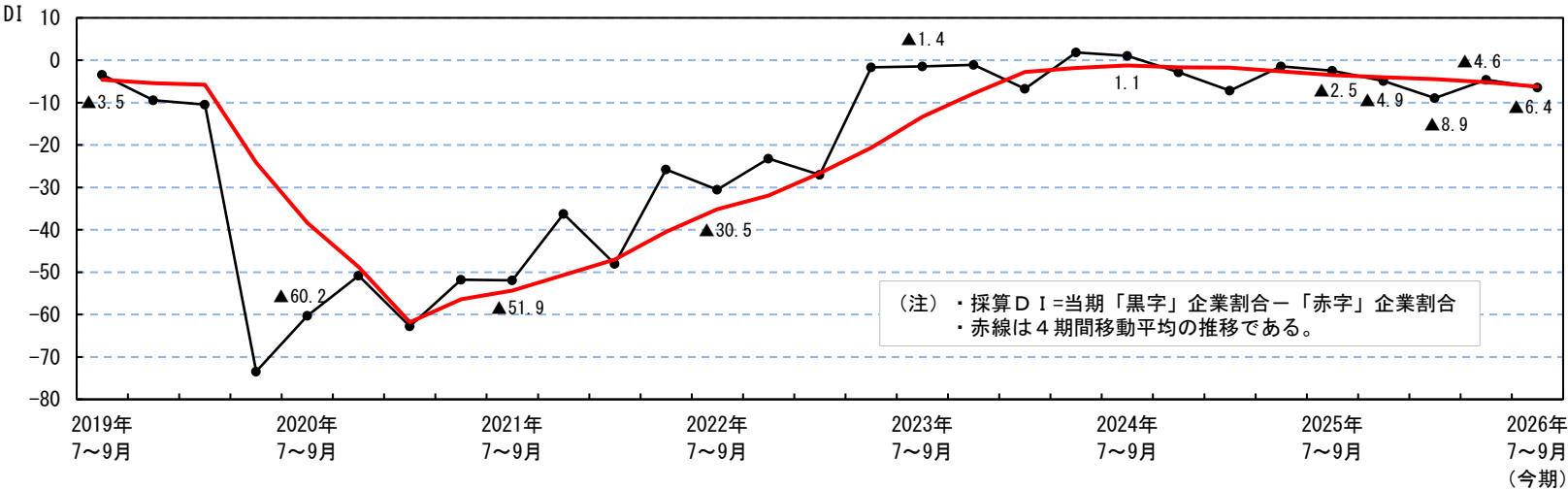
図表6 飲食業 売上DIの推移

凡例	2025年 7~9月	2025年 10~12月	2026年 1~3月	2026年 4~6月	2026年 7~9月 (今期)	2026年 10~12月 (見通し)
飲食業(全体)	▲ 1.9	▲ 11.9	▲ 11.2	▲ 13.6	▲ 16.7	▲ 11.5
そば・うどん	11.6	▲ 1.7	▲ 8.5	▲ 10.3	▲ 5.1	▲ 6.2
中華料理	▲ 3.5	▲ 16.9	▲ 10.1	▲ 12.5	▲ 12.7	▲ 5.6
す し	▲ 16.3	▲ 16.9	▲ 9.0	▲ 14.2	▲ 14.8	▲ 13.0
料 理	▲ 16.5	▲ 1.5	▲ 21.1	▲ 26.7	▲ 25.7	▲ 11.0
喫 茶	6.2	▲ 11.5	▲ 5.5	▲ 5.4	▲ 15.2	▲ 10.3
社 交	▲ 11.2	▲ 27.4	▲ 21.5	▲ 28.2	▲ 25.8	▲ 20.0
その他飲食	4.4	▲ 8.9	▲ 8.2	▲ 7.3	▲ 17.4	▲ 11.9

3. 採 算

○ 採算DIは、前期から1.8ポイント低下し、▲6.4となった。

図表7 採算DIの推移（全業種計）



図表8 業種別 採算DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2025年 7~9月	2025年 10~12月	2026年 1~3月	2026年 4~6月	2026年 7~9月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 3.2	5.1	5.8	1.3	4.6
氷 雪	38.2	▲ 3.8	▲ 8.9	0.0	18.5
理 容	7.3	0.9	2.9	7.2	10.5
美 容	▲ 6.1	▲ 8.3	▲ 11.0	▲ 9.3	▲ 6.0
映 画 館	34.5	5.7	5.6	5.8	0.0
ホテル・旅館	13.3	20.1	▲ 8.6	7.1	9.5
公衆浴場	1.8	9.2	15.5	15.5	9.9
クリーニング	▲ 11.3	▲ 4.6	▲ 34.7	▲ 2.3	▲ 20.2

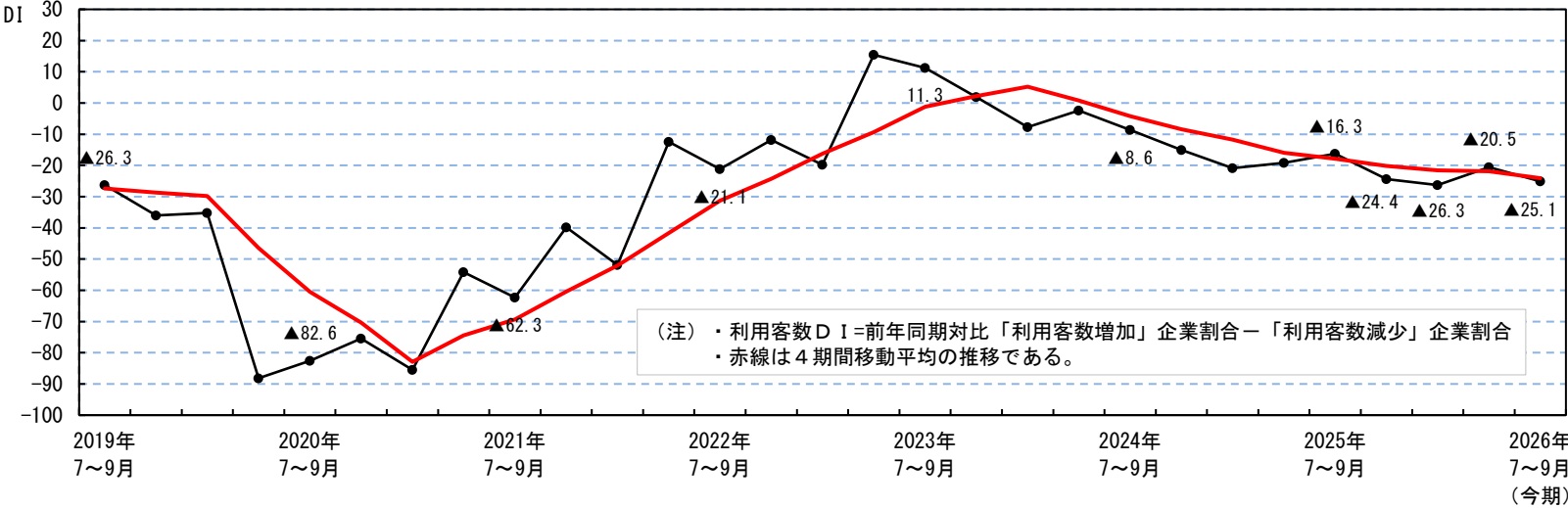
図表9 飲食業 採算DIの推移

凡例	2025年 7~9月	2025年 10~12月	2026年 1~3月	2026年 4~6月	2026年 7~9月 (今期)
飲食業(全体)	▲ 7.9	▲ 11.4	▲ 11.0	▲ 11.3	▲ 14.7
そば・うどん	4.6	3.4	▲ 2.2	▲ 2.8	▲ 5.6
中華料理	▲ 1.4	▲ 13.5	▲ 6.0	▲ 11.8	▲ 11.1
す し	▲ 11.8	▲ 12.9	▲ 10.1	▲ 14.1	▲ 13.0
料 理	▲ 19.5	▲ 11.8	▲ 15.0	▲ 18.4	▲ 26.3
喫 茶	▲ 17.0	▲ 20.7	▲ 14.4	▲ 16.1	▲ 14.5
社 交	▲ 20.6	▲ 31.9	▲ 25.7	▲ 18.9	▲ 30.9
その他飲食	▲ 1.7	▲ 4.2	▲ 8.2	▲ 6.2	▲ 10.0

4. 利用客数

○ 利用客数DIは、前期から4.6ポイント低下し、▲25.1となった。

図表10 利用客数DIの推移（全業種計）



図表11 業種別 利用客数DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月	2026年 7～9月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 24.5	▲ 17.1	▲ 16.2	▲ 14.5	▲ 17.1
氷 雪	7.3	▲ 3.8	▲ 17.9	▲ 22.8	▲ 13.2
理 容	▲ 16.6	▲ 34.0	▲ 29.8	▲ 17.2	▲ 15.5
美 容	▲ 29.3	▲ 35.7	▲ 36.8	▲ 32.7	▲ 31.6
映 画 館	40.0	20.8	1.9	17.3	▲ 41.5
ホテル・旅館	▲ 1.1	9.8	▲ 12.9	0.5	▲ 12.3
公衆浴場	▲ 19.1	▲ 11.9	3.6	▲ 16.4	▲ 12.6
クリーニング	▲ 35.1	▲ 34.4	▲ 43.0	▲ 28.2	▲ 43.9

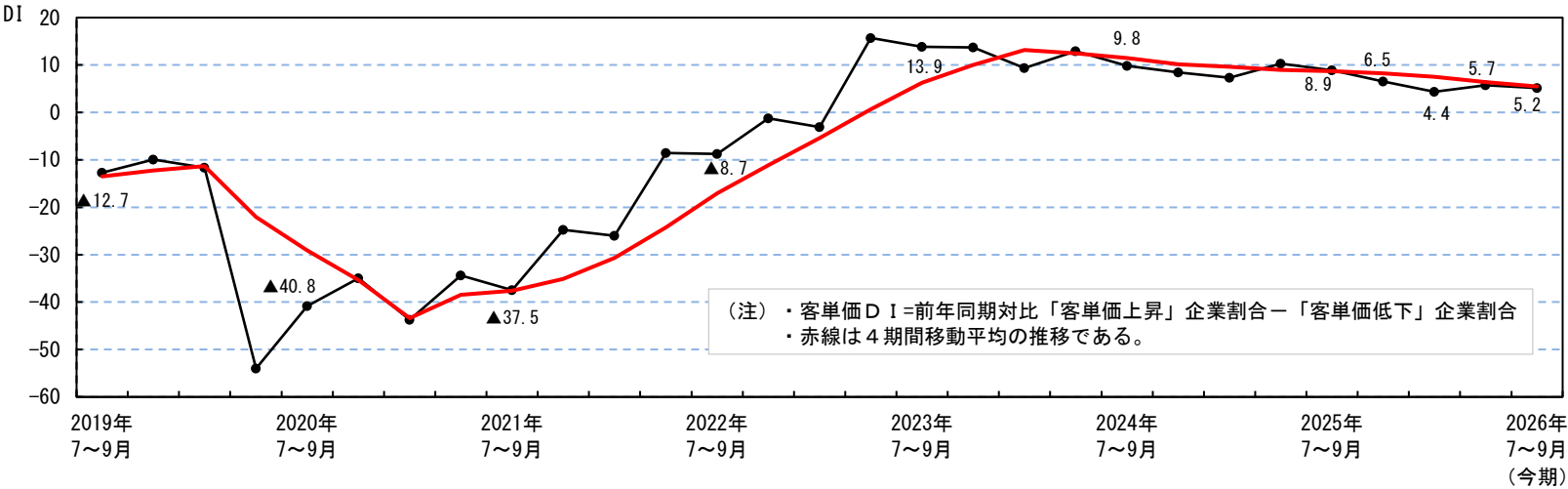
図表12 飲食業 利用客数DIの推移

凡例	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月	2026年 7～9月 (今期)
飲食業(全体)	▲ 12.5	▲ 24.8	▲ 25.5	▲ 21.2	▲ 25.8
そば・うどん	▲ 5.2	▲ 20.8	▲ 18.6	▲ 17.8	▲ 16.3
中華料理	▲ 4.9	▲ 25.0	▲ 25.5	▲ 24.3	▲ 23.2
す し	▲ 20.2	▲ 30.3	▲ 23.0	▲ 23.3	▲ 26.6
料 理	▲ 25.2	▲ 22.1	▲ 27.8	▲ 25.2	▲ 34.6
喫 茶	▲ 17.1	▲ 25.9	▲ 26.2	▲ 15.4	▲ 22.1
社 交	▲ 18.8	▲ 33.2	▲ 34.9	▲ 28.7	▲ 34.7
その他飲食	▲ 7.2	▲ 21.1	▲ 24.3	▲ 18.2	▲ 24.7

5. 客単価

○ 客単価DIは、前期から0.5ポイント低下し、5.2となった。

図表13 客単価DIの推移（全業種計）



図表14 業種別 客単価DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月	2026年 7～9月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 12.9	0.0	▲ 0.6	0.7	2.0
氷 雪	20.0	1.9	▲ 10.7	▲ 8.8	▲ 9.4
理 容	0.7	▲ 5.9	▲ 4.5	0.0	2.1
美 容	1.5	▲ 4.3	▲ 5.7	▲ 4.2	▲ 1.1
映 画 館	21.8	15.1	11.1	21.2	30.2
ホテル・旅館	45.7	47.3	23.7	36.1	35.2
公衆浴場	12.7	15.6	16.4	16.4	9.9
クリーニング	▲ 10.6	▲ 11.6	▲ 17.0	▲ 7.3	▲ 9.5

図表15 飲食業 客単価DIの推移

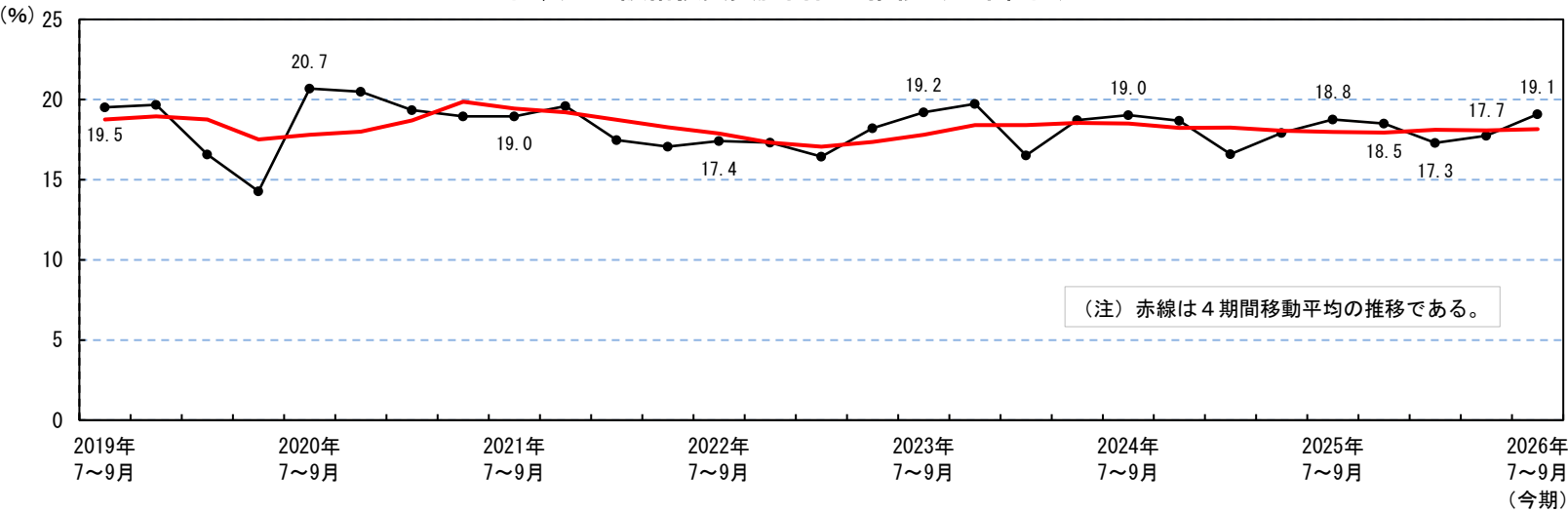
凡例	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月	2026年 7～9月 (今期)
飲食業(全体)	13.5	11.5	11.6	8.9	6.6
そば・うどん	26.2	24.3	11.9	20.7	12.9
中華料理	11.1	0.0	10.7	▲ 6.6	1.4
す し	12.9	8.4	18.0	9.1	1.8
料 理	16.5	21.3	20.3	14.8	9.6
喫 茶	7.5	13.7	16.6	14.8	11.7
社 交	0.5	▲ 6.8	▲ 2.7	▲ 1.0	▲ 3.2
その他飲食	16.3	15.7	11.1	10.0	9.1

II 設備投資の動向

1. 設備投資の実施状況

○ 今期（2026年7～9月）に設備投資を行った企業の割合は、前期から1.4ポイント上昇し、19.1%となった。

図表16 設備投資実施割合の推移（全業種計）



図表17 業種別 設備投資実施割合の推移（飲食業を除く） (%)

凡例	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月	2026年 7～9月 (今期)
食肉・食鳥肉	34.2	32.3	31.8	30.9	34.2
氷 雪	12.7	11.5	12.5	19.3	13.0
理 容	10.0	9.7	9.0	10.6	11.0
美 容	9.4	11.5	10.4	10.4	13.9
映 画 館	32.7	37.7	44.4	46.2	37.7
ホテル・旅館	46.3	51.1	50.5	51.9	46.9
公衆浴場	37.8	33.9	30.0	36.4	44.1
クリーニング	20.0	17.4	18.9	14.5	17.2

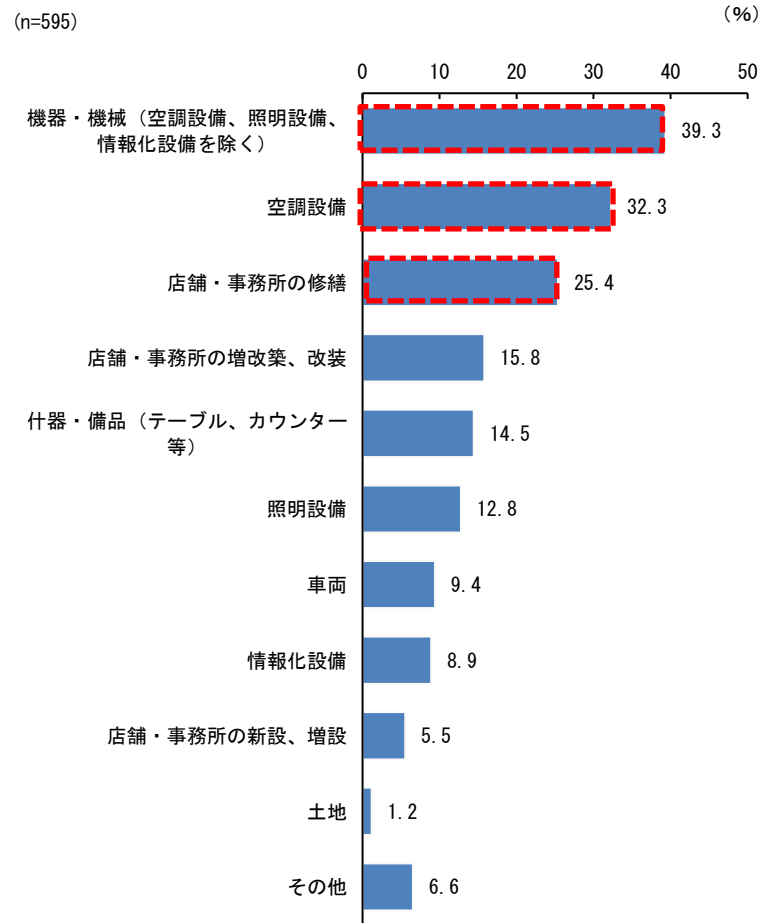
図表18 飲食業 設備投資実施割合の推移 (%)

凡例	2025年 7～9月	2025年 10～12月	2026年 1～3月	2026年 4～6月	2026年 7～9月 (今期)
飲食業(全体)	17.0	16.1	13.9	14.5	16.0
そば・うどん	20.1	20.0	15.6	19.3	18.0
中華料理	19.4	13.5	14.1	11.1	16.0
す し	20.2	13.5	10.6	9.6	14.2
料 理	28.9	22.1	21.8	26.5	29.2
喫 茶	8.2	9.3	11.0	10.7	11.0
社 交	6.5	11.0	8.0	10.7	9.9
その他飲食	17.9	19.0	15.6	15.0	16.0

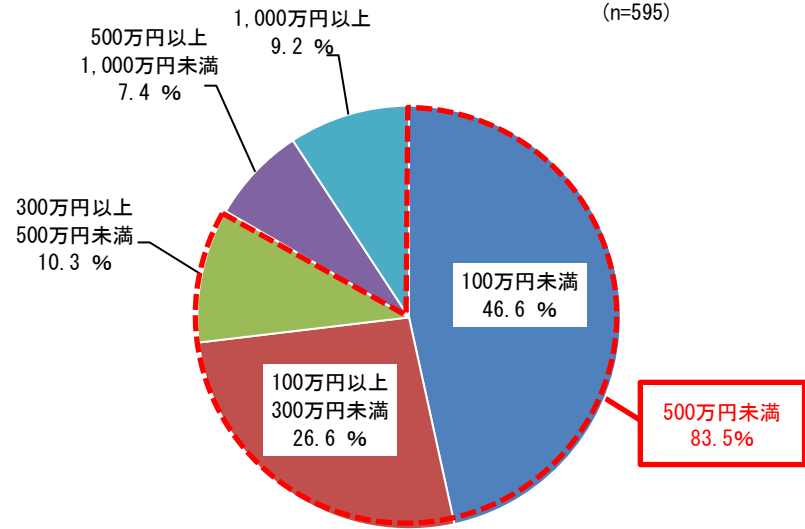
2. 設備投資の内容、設備投資金額、来期の設備投資計画

- 今期（2026年7～9月）の設備投資の内容は、「機器・機械（空調設備、照明設備、情報化設備を除く）」が39.3%と最も多く、次いで、「空調設備」（32.3%）、「店舗・事務所の修繕」（25.4%）の順となった。
- 今期の設備投資金額は、500万円未満が全体の約8割を占めた。
- 来期（2026年10～12月）の設備投資計画については、「実施予定あり」が12.0%となった。

図表19 設備投資の内容
(全業種計、複数回答(金額の大きい順に3つ以内))



図表20 設備投資金額（全業種計）
(n=595)



図表21 業種別 来期の設備投資実施予定割合
(飲食業を除く) (%)

凡例	2026年 10～12月期の予定
全業種計	12.0
食肉・食鳥肉	25.7
氷雪	9.3
理容	4.9
美容	8.4
映画館	32.1
ホテル・旅館	32.4
公衆浴場	25.2
クリーニング	11.5

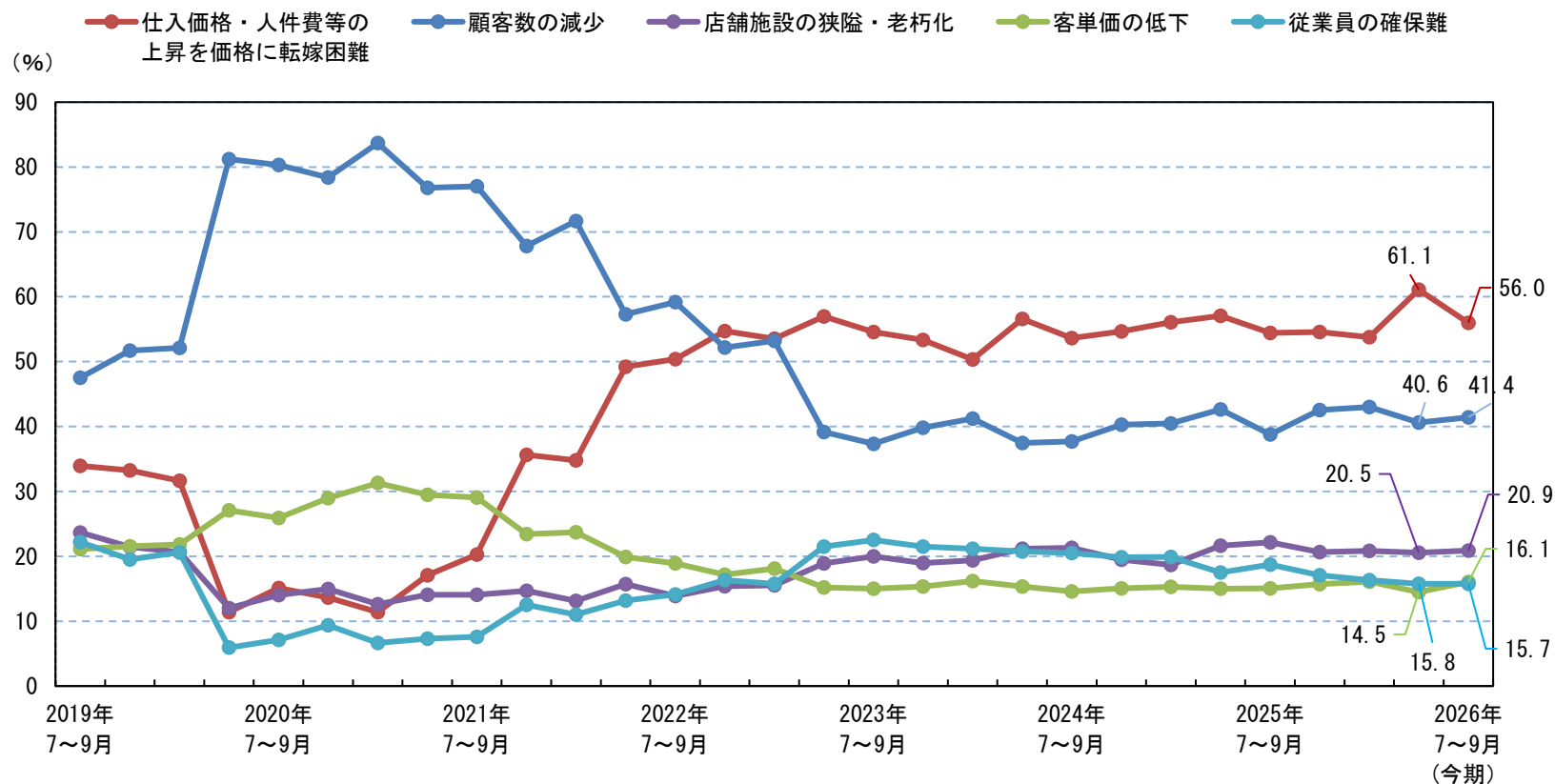
図表22 飲食業 来期の設備投資実施予定割合
(%)

凡例	2026年 10～12月期の予定
飲食業(全体)	9.7
そば・うどん	7.9
中華料理	13.9
すし	7.1
料理	16.8
喫茶	4.8
社交	5.8
その他飲食	11.3

Ⅲ 経営上の問題点

- 経営上の問題点は、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」が56.0%と最も多く、次いで、「顧客数の減少」(41.4%)、「店舗施設の狭隘・老朽化」(20.9%)の順となった。

図表23 主な経営上の問題点の推移（全業種計、複数回答（2つ以内））



図表24 業種別 主な経営上の問題点（2026年7～9月）

（％）

項 目	仕入価格・人件費等 の 上昇を価格に転嫁困難の	顧客数の減少	店舗施設の狭隘・老朽化	客単価の低下	従業員の確保難	後継者難	事業資金借入難	その他	特に問題なし
全 業 種 計	56.0	41.4	20.9	16.1	15.7	6.4	3.3	4.7	6.9
飲食業(全体)	67.3	40.6	16.1	14.7	17.2	6.4	4.6	4.3	4.3
そば・うどん	68.5	30.3	22.5	12.4	20.8	6.7	2.8	3.9	5.6
中華料理	70.1	29.9	22.2	14.6	12.5	9.0	3.5	4.9	6.3
すし	72.8	39.1	14.2	10.1	17.8	5.9	5.3	4.7	4.7
料理	59.1	42.3	22.6	16.1	18.2	7.3	6.6	3.6	2.9
喫茶	77.2	41.4	15.2	13.1	11.7	6.9	4.1	2.1	1.4
社交	54.5	61.3	5.8	20.9	16.8	3.1	6.3	6.8	3.1
その他飲食	68.6	39.2	14.9	14.7	18.6	6.5	4.1	3.9	4.8
食肉・食鳥肉	69.1	28.3	21.7	19.1	24.3	4.6	2.6	2.0	4.6
氷雪	48.1	37.0	7.4	24.1	16.7	9.3	1.9	7.4	9.3
理容	35.5	43.2	20.8	17.5	8.9	8.9	0.9	4.9	16.4
美容	38.2	50.6	15.2	21.0	12.6	6.6	2.4	5.7	10.8
映画館	49.1	41.5	49.1	3.8	15.1	1.9	1.9	7.5	5.7
ホテル・旅館	54.7	25.1	43.0	7.3	37.4	5.0	6.1	3.4	1.7
公衆浴場	51.4	31.5	57.7	4.5	11.7	8.1	2.7	4.5	5.4
クリーニング	56.9	51.1	22.9	22.9	6.5	3.4	1.5	6.1	4.6

（注）複数回答（2つ以内）のため合計は100を超える。

Ⅳ 業況判断理由

今期：2026年7～9月 来期：2026年10～12月

(1) そば・うどん

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	三重県	お客さまの来店は増えつつあるが、従業員の確保ができず、現状維持となった。
	悪化	茨城県	前期に値上げをしたが、値上げ幅以上に仕入価格や光熱費が上昇しており、利益率が低下した。
来期	不変	愛知県	客数は変わらないが、値上げしたことで売上は増加した。一方で仕入価格も上昇しており、業況は変わらず推移するだろう。
	悪化	千葉県	仕入価格の上昇に、販売価格が追いついていない。悪化と判断する。

(2) 中華料理

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	栃木県	連休が多く客数が増えたことに加え、従業員を確保できたことで営業日数も維持できた。
	悪化	徳島県	顧客離れの不安もあり仕入価格の上昇を販売価格に転嫁できず、売上・利益ともに減少した。
来期	好転	群馬県	米価が下がり、やや好転の兆しがみられる。
	悪化	京都府	異常気象による客数の減少や、物価高騰による消費控えなどが予想される。円安傾向も続いており、輸入食材の値上がりは今後も続くだろう。

(3) すし

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	東京都	常連客がついており、売上は安定して推移している。
	悪化	富山県	物価高騰により消費者の財布の紐が固く、外食を控える傾向がある。
来期	不変	北海道	インバウンド客は順調に推移が見込めるが、国内の不景気はいかんともしがたい。現状維持で精一杯。
	悪化	愛媛県	今後も物価高騰が続き、顧客はますます外食を控えるだろう。

(4) 料理

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	福井県	猛暑の影響もあり、来店客数はやや減少した。仕入価格の上昇もあり、値上げで対応したことで、おおむね前年同水準の売上を維持している。
	悪化	栃木県	天候不順に加え、中国からの観光客が激減した影響を受けている。消費者の節約志向が強まり、会食も減少傾向にある。
来期	好転	北海道	米価が下がる傾向にあり、経費の上昇に一服感がある。年末は繁忙期でもあるため、利益を伸ばしていきたい。
	悪化	広島県	中東情勢の影響で仕入価格の上昇が懸念される。今後の景気も不透明感がある。

(5) 喫茶

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	奈良県	暑い日が続き、かき氷がよく売れた。奈良の夏は燈花会や送り火などイベントが多いので、例年賑わっている。
	悪化	東京都	猛暑でインバウンド客が減少傾向にある上、人手不足が続いている。
来期	好転	福島県	贈答品などの年末需要が見込めることから、売上は増加するだろう。
	悪化	岡山県	台風や異常気象による外出自体の減少や、物価高騰による外食控えが考えられるため、来期は悪化するだろう。

(6) 社交

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	徳島県	常連のお客さまは変わらず来店しているが、仕入価格が上昇しているため業況はあまり変わらない。
	悪化	鳥取県	物価高騰の影響で、消費を控える動きが一段と強まっている。
来期	好転	宮城県	観光・イベント需要の回復が見込まれる。また、若い顧客層も増えつつあり、売上増加が期待できる。
	悪化	福島県	来期は客を呼び込めるようなイベントの予定がなく、業況は落ち込むだろう。

(7) その他飲食

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	愛知県	メニューの値上げを実施したため売上は上がったが、経費も同様に上がっており、トータルでは不変である。
	悪化	山形県	仕入価格の上昇が続いており、業況を悪化させている。値上げをすれば売上悪化につながる懸念があり、簡単には判断できない。
来期	好転	広島県	年末は繁忙期であり、団体客からの問い合わせも多い。売上増加が期待できる。
	悪化	大阪府	物価高騰により顧客の消費マインドが低下している。仕入価格の上昇もあり、価格転嫁せざるを得ないが、売上の低下は避けられないだろう。

(8) 食肉

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	兵庫県	仕入れや資材などの価格上昇で利益率が低下しているが、総菜の売上は伸びており利益はトントンである。
	悪化	高知県	売上は多少伸びているものの、物価高騰により利益は減少傾向。総合的に判断して業況は悪化とした。
来期	不変	福岡県	商品価格の見直しを進めるとともに、輸送の効率化を図り利益を確保していく。
	悪化	茨城県	仕入価格の値上げが頻繁に行われ、価格転嫁が追いつかないため業況は悪化を見込む。

(9) 食鳥肉

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	岐阜県	値上げをしたところ、売上の減少が想定よりも少なく、利益率が向上した。
	悪化	岡山県	鶏肉価格の上昇により、販売量が減少した。
来期	好転	神奈川県	正社員・パートタイマーともに定着したため、稼働が安定するだろう。
	不変	鹿児島県	資材や配送にかかる費用が急激に上昇しているが、販売価格への転嫁により対策する。業況は不変と判断した。

(10) 氷雪

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	兵庫県	例年、猛暑の影響で売上が伸びる時期。今年も不変と判断する。
	悪化	神奈川県	ゲリラ豪雨の影響でイベント関係の受注がキャンセルになったり、暑さのためにイベント自体が涼しい時期に延期となったため、売上が減少した。
来期	不変	高知県	秋はイベントが少なく、夏ほどの期待はできないが、夜の街がにぎわえば多少は期待ができると考え、業況は不変とした。
	悪化	新潟県	来期は気温の低下により需要が減るだろう。

(11) 理容

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	山形県	物価高騰の影響で料金を値上げしたところ、客単価がアップしたことに加え、暑さによる来店周期の短縮が重なり、売上が好転した。
	悪化	佐賀県	お客さまの高齢化が進んでいることもあり、猛暑が続くと、日中の来店を控える傾向がある。
来期	不変	岩手県	固定客を中心に一定の需要は見込めるものの、売上や客数を大きく押し上げる材料は現時点で見当たらないことから、業況は変わらないと判断した。
	悪化	長野県	物価高騰の影響で、お客さまの来店サイクルが長期化している。

(12) 美容

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	福井県	前期と比較すると来店サイクルがやや長くなっているが、1人あたりの単価が上がっているため、業況は変わらない。
	悪化	滋賀県	物価高騰の影響か、店販商品の売上が減少している。
来期	不変	沖縄県	地元客の来店頻度は悪化傾向にあるが、インバウンド客数の増加に期待している。
	悪化	秋田県	お客さまの節約志向による利用控えが顕著。イベントもほとんど無いため、来店に繋がらない。

(13) 映画館

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	埼玉県	興行する作品によって集客に強弱はあるが、おおむね昨年と同様に推移している。
	悪化	高知県	前年は『国宝』『鬼滅の刃』の大ヒット作があったが、今年はこの2作に匹敵するヒット作品がないことから、業況は悪化とした。
来期	不変	大阪府	公開予定作品には期待できるものがあるが、業況の好転までは見込まれず、不変と判断する。
	悪化	岡山県	夏休み興行が終わり閑散期に入るため、業況は悪化するだろう。

(14) ホテル・旅館

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	北海道	個人客やインバウンド客の宿泊が順調に推移している。9月は連休もあり、昨年に比べてかなり好調である。
	不変	山梨県	出張等のビジネス需要に加え観光やレジャー需要も一定程度あり、堅調に推移している。一方で、食材・光熱費の上昇や人件費の負担増が続いており、売上は維持できているものの収益面では厳しい状況にある。当期の業況は不変と判断した。
来期	好転	埼玉県	暑さも収まり秋の観光シーズンが始まるため、業況が良くなることを期待している。
	悪化	福井県	物価高騰の影響でファミリー層を中心に予約が鈍化している。また、夕食を付けないお客さまが増加しており客単価は減少。業況は悪化する見通し。

(15) 公衆浴場

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	鳥取県	梅雨が明けるのが早く、天候に恵まれて客足が落ちなかった。また、中高生の合宿もあり、想定以上に利用客数が増加した。
	悪化	兵庫県	夏は銭湯の熱い湯につかる気分にならず、利用客が減少。また、光熱費の上昇により採算が低下している。
来期	不変	大分県	気候が涼しくなるため客足が増加することに期待しているが、物価高騰で消費マインドが低下しており、今よりも良くはならないだろう。
	悪化	石川県	電気料金・燃料費が上昇し、人件費の増加も見込まれるため、経営は厳しくなるだろう。

(16) クリーニング

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	茨城県	クリーニング需要は2～3割減少したが、リネンの注文が増えたためトータルで大きな変化はない。
	悪化	秋田県	地域住民の減少や顧客の高齢化により、クリーニング需要が減少している。石油関連の燃料費や輸送費も上昇している。
来期	好転	山口県	秋の衣替えシーズンに入るため好転するだろう。ただ、原油価格は変わらず高いので予断は許されない。
	悪化	三重県	原材料費が毎月のように値上がりしている。地域の人口も減っているため、お客さまも減少傾向にある。